



観光まちづくり 最前線

No.11

地域を歩くレポート

『バスタ新宿』から始まる新しいツーリズム…“バス旅☆多文化”の発信拠点!! ～成田空港と同じ一日2万人が利用する新宿南口バスターミナルがオープン

帝京大学 経済学部 観光経営学科 大下ゼミ

平成28年4月4日、これまで新宿駅周辺に散在していた高速バス乗り場が、新宿駅南口徒歩1分のところに結集。オープン当初、連日のように報道されていた『バスタ新宿』を今回は留学生とともにレポートします。

■道路法に準拠する施設『バスタ新宿』

駅前広場もない新宿駅南口。いつも混雑している甲州街道(国道20号)を渡ると『バスタ新宿』があります。普通の道路に見える駅前の甲州街道は、実は大正14年に架けられた新宿線橋。架橋から80年余りが経過しているため、安全性の低下が指摘されていました。また一日約340万人以上が乗降する日本一の交通結節の要でありながら、交通機関相互の乗り換え、特に高速バスの乗り換えが不便との声を受けて誕生したのが『バスタ新宿』。国土交通省が事業主体となり、民間バスターミナル会社が施設運営を行う官民連携の事業として、一日2万人が利用するバスターミナルがオープンしました。

『バスタ新宿』は駅前広場と同じ「道路法」に準拠する施設だそうです…どうみても道路ではなく建物ですが〜!!

■『バスタ新宿』の最大の効果

『バスタ新宿』の最大の整備効果は、新宿駅周辺に分散されていた高速バス乗り場が集約されたことです。国土交通省の資料によるとJR新宿駅から高速バス停への乗り換えが最大14分かかっていたのに対し、オープン後は約1分まで短縮されたそうです。雨の日でも傘がいらぬ、夜は明るいところでバスを待てる、女性の利用者にとっては“安心・安全”という整備効果もあると思います。

施設は、4階が発券フロアで3階は到着フロア。到着フロアには東京観光情報センターがあり、観光案内などの様々なサービスを行っています。また、隣接する商業施設の6階にはガーデンがあり、子供たちが遊ぶような遊具もありました。待ち時間も飽きさせない工夫をしていると感じました。他には帝京大学のクリニック、薬局等も入っていました。

しかしバス出発フロアには自動販売機しかなく、ちょっと買い物をしたい旅行者には不便です(しかもビールを売っていないし…)。これも道路法上の課題と聞きました。これからの『バスタ新宿』の益々の機能充実に期待したいものです。



『バスタ新宿』のロゴが、レトロでおしゃれという声も…

■バスタ新宿オープン後1か月の新宿発着バス利用者数の推移



一日平均約2万人が利用～成田空港に匹敵するようです
(国土交通省関東地方整備局・平成28年5月24日発表資料より)

■新しいツーリズム発信の予感～バス旅☆多文化

バスは飛行機や新幹線などよりも低コストでアクセスできる交通手段です。さらに鉄道や飛行機等の1次交通に2次交通が加わり、観光地と直接つながっている交通機関でもあります。旅に不慣れな利用者も、バスに乗っていれば観光地に行くことができる便利で廉価な交通手段がバス…今後このメリットが広まり“バス旅文化”という旅の新たなブームが到来するのではないのでしょうか。

また、近年、多くの国からのインバウンド観光客が増加傾向にあります。2020年の東京オリンピックの際にも観戦目的の訪日観光客の増加が期待されます。『バスタ新宿』では、多言語を話せるスタッフがチケットカウンターの案内として待機しています。インバウンド旅行者でも気軽にチケットや行き方などの情報について教えてもらうことができます。留学生も安心して“バス旅”で日本各地の観光地に出かけられます!!

(沼崎彩音・田貝晃・姜林(大学院ゼミ生))



iPadは多言語対応しています



「Happy君」が出迎えてくれます。